

# 子どもたちの明日 Children, Our Future

2006年9月 NO.79



散髪風景 バンキアン地区の小林正典

## 目次

- ② モノやお金だけではなく知識をください
- ④ カンボジア農村のくらしをみる！ チョージーちゃんの1日
- ⑥ 楽しみながら国際協力！ シルク販売で女性の支援
- ⑧ カンボジアコラム「水勘當のはなし」

幼い難民を考える会(CYR)は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に感銘され、1980年に組織されました。子どもたちが心身ともに健全に成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。

## カンボジア報告会 2006年

保育事業担当 チット・クンティア

# モノやお金だけではなく 知識をください

2006年5月27日、聖心女子大学で開催された活動報告会では、チット・クンティア(カンボジア事務所スタッフ)が、約50名の参加者を前に、保育所の将来の想いを語りました。「支援に頼り続けてばかりではいけない。」現地からの「生」の声をみなさんにお届けします。



チット・クンティア

1988~1990  
シニア高専  
1991~1992  
ロシア語学校(ウクライナ)  
1993~1994  
東京外国語日本語学校  
1994~1998  
埼玉大学 経済学部経営学科  
2001~2006  
カンボジア事務所スタッフ

妻、子ども1人(3歳半)

カンボジア人、  
自らの手で将来を担う

CYRの保育所は、10年以上、日本からの支援を受けてきました。この先もずっと支援に甘えることは難しいので、今わたしたち(カンボジア人)は、自分たちで保育所を運営していく計画をたてています。そのために、村では「運営委員会」を設立しました。

運営委員会の役割は3つです。1つめは、保育所の自主運営に向けて必要な経費・収入を得ることです。2つめは、CYRが持っている保育所の運営方法や幼児教育の知識を学ぶことです。そして3つめに、地域の人や先生の意識を変えていくことです。

今日は、特に1つめの収入を得る取り組みについてお話します。

生活が楽になって  
はじめて保育費が払える

委員会は、保育収入を得るために、村の人にお金の貸付を行っています。CYRは元金5,000ドルをサポートしました。目的は、村の人が単にお金を得るだけではなく、それぞれが得意の商売に取り組みで生活向上につなげることです。たとえば、今まで現金がないために持てなかった商売道具が買えますね。もし自分の生活が楽になったら、保育所の給食費を払えるようになります。そして、委員会に入るその利息分を、先生たちの人件費にあてます。今、少しずつこの人件費をCYRの手から離れて集められるように努力しているところです。

貸したお金が  
ちゃんと返ってくるしくみ

今まで貸したお金が返ってこなかったケースはありませんでした。なぜなら委員会は、村の1軒1軒の家



©小林正典

庭状況やその人の性格、たとえば真面目なのか？お酒を飲むか？などを把握していて、その上でちゃんとお金を返してくれると判断した人へ貸しているからです。

1年間で  
これだけやった！

この1年間で委員会が集めたお金は、合計140ドルです。カンボジアにとって、これはとても大きい金額だと思いませんか？給食費の約1ヶ月分を集めたこととなります。

まだまだ難しいことは  
あるけれど・・・？

委員会には難しいことがたくさんあります。今まで誰もやったことなかった計算や運営管理などは、CYRが教え、手伝っています。完全な自主運営に向けてカンボジア人には限界があるけれど、将来は自分たちでやっていけるように取り組んでいきたいと思っています。

もしカンボジアに  
支援してくださるなら・・・  
- さいごに日本のみなさんへ伝えたいこと -

わたしは、CYRの保育所を築立っていく子どもたちが、カンボジアの将来を担うために必要な人材になると信じています。カンボジアがよい国になるには、そういう人を小さいうちから育てることが大切です。だから、もしみなさんがカンボジアに対して支援をしてくださるなら、子どもから始めてください。

日本はカンボジアに対して世界一支援してくれる国です。わたしがカンボジア人として実感していることは、CYRの保育所と同じように、カンボジア人が少しでも自分たちの方でやっていくという意志と目標があれば、将来のこの国は明るくなるということです。

もし、「モノ」や「お金」だけの支援をただ受け続けていけば、カンボジアは良くなりません。もちろん自分たちでやれるように最初は「モノ」も「お金」も必要です。しかし、それだけではなく、人を育てるための「知識」などをくだされれば嬉しいと思います。これからもよろしくおねがいします。これで、わたしからの報告を終わりたいと思います。

# チョーギーちゃんの1日

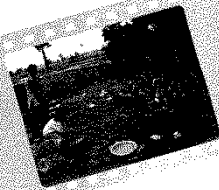
CYRの保育所に通うカンボジアの子どもたち。普段はどんな生活を送っているのでしょうか。農村に暮らすチョーギーちゃん5才の1日をお伝えします。



チョーギーちゃん  
プロフィール

- 年齢 : 5才
- 身長体重 : 身長106cm、体重13.4kg
- 家族 : 父(32歳)、母(25歳)、弟(7ヶ月)
- 家の場所 : プレイタトウ村  
(ブンペンから車で1時間)
- 保育所で好きなこと : 文字や数字の勉強

起床 5 : 00



お手伝い 7 : 00  
お父さんとアヒルの世話をします。



通園 7:45

CYRの支援するバンキアン保育所まで、親戚のお兄さんが送ってくれます。片道は自転車です。土の道を走ります。



文字を学ぶ 8:30

文字に興味しながら好奇心を養うことは、将来の大きな力になっていくでしょう。

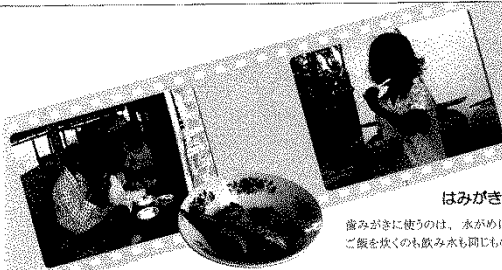


お昼ね 12 : 00



外遊び 13 : 00

「ハンカチ落とし」、「だるまさんがころんだ」のような遊びがあります。



はみがき 7 : 40

歯みがきに使うのは、水がめに入れた井戸水。ご飯を炊くのも飲み水も同じものを使います。

朝食 7 : 30

メニューはごはんと魚。お父さんが川で捕ってきたものです。収入が少ないため、あまりお肉は買いません。



ダンス 9:30

伝統的なココナツダンスを習います。内戦時には、伝統文化がほとんど破壊されてしまいました。



給食 11 : 00

みんな大好きな給食の時間。給食は一食10円です。兼業タッパーで、子どもたちを元気づけます。



夕食 17 : 00

献立は、お父さんが庭で育てたマッシュルームと豚肉のスープ。  
(家族全員分の豚肉代=約30円)

就寝 20 : 00

新DVD、貸し出し受付中! (2編入り)

1. CYR活動紹介 (16分)
  2. カンボジアの子どもの暮らし (8分) チョーギーちゃんが登場
- みなさまぜひご活用ください。貸し出しを希望される方は事務局へ、※制作協力 映画社・MAXIMEDIA 谷口健三氏

## 楽しみながら国際協力

# シルク販売で女性の支援

CYRは、農村の女性たちの経済的自立を支えるため、織物の技術研修を行っています。完成したシルク製品の一部は、日本で多くの方の手によって販売されています。今回は、製品販売にご協力いただいている3名の方にインタビューを行いました。

立石三月子さん (会員) in 大阪  
知的障害者施設のお花見イベント



— CYRと関わったきっかけは? —

26年前、福祉の仕事をしていた頃、「一方的に支援する」という姿勢に疑問を感じていました。そんな時、「共に考え相手を尊重する」というCYRに共感したのがきっかけです。

— お気に入りの製品を1つ「スカーフ」

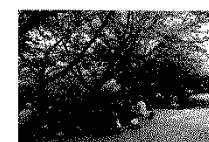


— 販売イベントについて教えてください —

職場である知的障害者施設「大字学園」の「お花見会」に織物店を出して売っています。当日は、施設の利用者さんや家族を中心に、地域の方も含めて約650人の来場者で大賑わいです。

— イベントのご感想は? —

一人でも多くの方にカンボジアやCYRの活動を知ってもらいたいですね。店に立ち寄ってくださるお客さんには、シルクファンや、CYRを支援しようという人まで様々ですが、こうした活動が他にも広がってほしいと思います。



高山万紀子さん in 秋田  
秋田県国際交流をすすめる女性の会「わびえ」



— CYRと関わったきっかけは? —

2002年、CYR元理事で秋田にゆかりのある大井さんが、織物販売について奥夫人会館へお声かけくださったのが始まりです。口々に伝わったCYRの活動に興味しました。

— お気に入りの製品を1つ「ソウのマスク」



— 販売イベントについて教えてください —

毎年休に、14の女性団体が各自のペースで活動発表やチャリティ販売をする「ネットワークキング」というイベントが秋田駅近くで開催されるので、「わびえ」はその中に織物店を出しています。

— イベントのご感想は? —

色鮮やかな織物は、通るお客さんの目を引きます。製品の魅力だけでなく、カンボジアの女性の支援につながることを理解して協力してくださる方には嬉しくなります。CYRさん、嬉しいお知らせ分、ありがとうございます。



和田美恵子さん in 神奈川  
株式会社ちらえのわハウス



— CYRと関わったきっかけは? —

写真展へ行ったのがきっかけです。カンボジアでは伝統織物が途絶えたことや、その中で着る育てる地道な活動をしているCYRを知ってお手伝いしたいと思いました。

— お気に入りの製品を1つ「帯」



— 販売イベントについて教えてください —

2005年11月に、小田原原簿通りギャラリーの「ちえのわフェア」にて織物を販売しました。カンボジアは、難しい問題を抱えています。当日は、CYR事務局長の笹村さんをお呼びし、お話を伺いました。

— イベントのご感想は? —

CYRの話を聞いたお客さんたちはとても熱心で、活動への理解が深まった様子でした。当日は、布を展示したので、とてもきれいだったと好評でした。



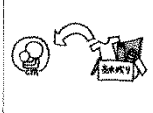
## カンボジアシルク製品を販売してみませんか?

個人・団体・学校・企業の方など、どなたでも簡単に協力いただけます。イベント、ショップ、ギャラリー、インターネットなど販売方法は様々。お気軽に販売してみませんか?

1. 製品は郵送します



2. 売れ残った製品は返品できます



3. 手数料として売上げの30%をお支払いします



※詳しくは事務局までお問い合わせください。Tel: 03-3796-6399 E-mail: info@cyr.or.jp 担当: 松井

## 水幽霊のはなし【抄訳】

カンボジア人は、水の中には水幽霊が住んでいると信じています。溺れ死んだ人の魂が、身代わりの泉の首を長くして持っているのです。学校が休みになると、子どもたちは田舎の祖父家に預けられたものでした。親子は季節に従って暮らす田舎の生活を体験させたいと願ったからです。

ここからのお話は、叔母と一緒に曾祖父の家に預けられていた、幼い頃の母の物語です。

雨季になって湖に水が溢れ込むと、村の人々は遠く離れた湖に出かけました。母と叔母も一緒に行きました。叔父は良くないことが起こると反対しましたが、魚釣りや水汲みが行われるのを母たちに見せなかつた叔父が連れて行ってくれました。

お昼頃、湖に歩いて魚釣りが始まりました。大人たちは籠をかぶせて魚を釣り始めました。母たち子どもは魚に獲れるように寄りましたが、じっとしていません。浅瀬に降りてワニや巻貝を探そうとしました。その時、水が上がるのが水面に出てきて大波だったので、子どもたちも身づくろいを見つけて走り出しました。

突然、子どもの叫び声が上がりました。女が泳いで来て、その子を水の中に引き寄せたのです。近くにいる大人がその手を救い上げて、子どもたちは水から上がるように寄りました。

大人が大きな魚を切りつけると、たちまちその魚は割の長い女に姿を変えて、その人が泳いで来ました。その人はお母さんと呼ばれ、走りまわった人々に声から助けられました。

その夕方、泉の村で村人に与った恩恵が語り合ったようです。「自身に願点したい。切りつけられたところがひどく痛む。ポンパンから来た子どもをもう少しで身代わりでされたのが邪魔が入った。切りつけた後必ず身代わりにしてやる。」その手紙は、湖に魚を釣りに行き連れて行った男性がいました。



### CYRの活動をご支援ください

年会費 正会員 ¥10,000 学生会員 ¥3,000 団体会員 ¥30,000

下記の口座にご送金ください。

郵便振替 No.00110-8-36227 (特送) 幼い難民を考える会 銀行振替 三菱東京UFJ銀行六本木支店 (普通No.1351747 特定非営利活動法人 幼い難民を考える会)

※CYRは認定NPO法人です。5,000円を超えるご寄付は寄付金控除の対象となります。

幼い難民を考える会

CYR / CARE FOR YOUNG REFUGEES  
〒106-6046 東京都港区元町有明ビル2F  
TEL: 03-3796-8317 FAX: 03-3796-8399  
Email: info@cyr.or.jp  
URL: http://www.cyr.or.jp

子どもたちの明日 79号

◆発行日: 2006年9月8日  
◆発行人: 深永正勝